

第4学年 社会科学習指導案

令和6年10月 日第5校時
小学校 年 名
指導者

1 単元名 地域で受け継がれてきたもの

2 単元について

(1) 教材観

本単元では、年中行事として阿波おどりと西祖谷の神代踊を取り上げる。阿波おどりは戦争での中止を乗り越えて400年以上の歴史があり、衣装・小道具・踊り方を時代に合わせて変化させながら受け継がれ、徳島県を代表する全国的にも有名な伝統行事である。また、西祖谷の神代踊は世代を超え、地域全体で伝承されていることから地域社会の核となる役割を果たしており、文化的な意味だけでなく、社会的な機能を有していることや、地域間の対話や交流を促進し、国際社会における無形文化遺産の保護の取組に貢献することが期待されることなどの理由から「風流踊」としてユネスコ（国連教育科学文化機関）の無形文化遺産に登録された。ユネスコの無形文化遺産への登録前から三好市西祖谷では地域に根ざした伝統行事として継承されてきた。しかし、それぞれの踊りは共に地域の過疎化による担い手の減少など様々な課題を抱えている。この2つの年中行事を「受け継ぐためのくふう」と「広げるためのくふう」の2つの視点を用いて比較し、人々の願いや努力によって受け継がれてきた地域の伝統芸能を受け継ぎ、広めるために自分たちにできることを考えることは重要である。本単元の学習を通して、阿波おどりと西祖谷の神代踊の保存や継承のための取組や人々の願いや努力に着目して、地域の伝統や文化の保存や継承をしていく上での課題を把握し、その解決に向けて何が必要かを考えさせたい。

(2) 児童観

本学級の子供たちの地元である三好市池田町では、毎年夏に「いけだ阿波おどり」が開催され、学級内にも阿波おどりの連に所属して踊っている子供も6人おり、徳島県を代表する伝統的な年中行事である阿波おどりには幼少期から馴染みがあり、誇りを感じている。しかし、阿波おどりがいつ頃から始まり、どのように受け継がれてきたかなどの知識は少ない。一方で、同じ三好市内であっても自分が住んでいる地域や学校がある地域以外の地名や特産物、伝統行事などについては知っていることが少なく、身近ではないためか興味を持っている子供は少ない。そのため、「風流踊」の一つとしてユネスコの無形文化遺産に登録された西祖谷の神代踊についても授業で取り上げる前から知っている児童はいない。

本学級の子供たちはこれまでの社会科学習を通して、資料から必要な情報を読み取ることができるようになっている。また、毎回の社会科授業で取り入れている地図帳を用いた国内の地名探しゲームでは、楽しみながら地図を見て地名を探したり、自分たちで問題を作ったりするなど、地理的内容への高い意欲が感じられる。しかし、1学期の単元「ごみのゆくえ」や「水はどこから」の単元では、自分たちの生活に密接に関わる内容であるため授業内容への興味・関心はあるが、単元末に自分たちにできることや地域でできることを考える場面では、切実に自分事として考えることができていない子供は少なかった。そこで本単元では、阿波おどりや西祖谷の神代踊を受け継ぐためのくふうや広げるためのくふうを捉えて比較し、未来へ受け継いでいくための課題解決に向けて取り組む態度や、地域の人と協力して何ができるかについて考える主体的な思考力・判断力を育みたい。

(3) 指導観

本単元で子供たちは徳島県の伝統行事である阿波おどりと西祖谷の神代踊の歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組や人々の様々な願いについて調べていく。単元の前半では、本学級の子供たちにも身近である阿波おどりの歴史と他地域へと広まっていることを捉え、「阿波おどりはどのようにして長く続いてきたのだろうか。」「阿波おどりを広めるためにどのようにくふうをしているのだろうか。」と疑問を持たせ、研究意欲を高めていく。単元の後半では、三好市西祖谷で受け継がれ、2022年にユネスコの無形文化遺産に登録された西祖谷の神代踊を取り上げる。実際に神代踊りに参加している三好市立櫛生小学校の児童とオンラインで交流を行うことで子供たちが興味を持ち、西祖谷の神代踊に関わる人々の様々な思いを捉えることができるようにする。さらに、阿波おどりと西祖谷の神代踊の特徴を「受け継ぐためのくふう」「広げるためのくふう」の2つの視点で比較することを通して集めた情報を整理していく。本時の学習では、阿波おどりと西祖谷の神代踊の違いから、西祖谷の神代踊は「広げるためのくふう」に課題があることに着目させ、「神代踊を広く知ってもらうためにはどのようなことができるか。」という判断場面を設定する。その際に、櫛生小学校の児童の思いや、西祖谷の神代踊りについて調べたことなどから、神代踊を広げていくための課題を把握し、その解決に向けて「自分にできること」「地域の人に提案をしてできること」の視点で伝統行事の保存や継承における課題を解決するために必要な行動についての選択・判断を行うことができるように指導していく。

3 単元の目標

- ・地域の伝統と文化について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・地域の伝統と文化の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- ・地域の伝統と文化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

4 単元の評価規準

知識・技能	<p>① 県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解している。</p> <p>② 県内の伝統や文化について、年表や映像の資料から調査したり、年中行事に関わっている方のお話を聞いたりして分かったことを年表や表にまとめている。</p>
思考・判断・表現	<p>① 文化財や年中行事の歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現している。</p> <p>② 地域の伝統や文化を保護したり継承したりするために自分たちが協力できることを考えたり、選択・判断したりしたことを表現している。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>① 県内の伝統や文化について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>② 学習したことをもとに、地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりしようとしている。</p>

5 指導と評価の計画（全11時間）

段階	時間	ねらい・学習活動	評価規準〔評価方法〕
問題を つかむ	1	・自分たちが住む徳島県には大勢の人が参加したり、見物に來たりする年中行事があることを捉え、知っていることや知りたいことを話し合い、学習の見通しを立てる。	・自分たちの県を代表する年中行事には、大勢の人が参加したり、見物に來たりしていることを捉えている。 (発言・ノート)【態－①】
予想を たてる 調べた しめる	2	・阿波おどりの歴史を年表や写真から400年続いてきたことを捉え、なぜ数々の中断があったにも関わらず受け継がれてきたのかを明らかにするために調べ、考えをまとめる。	・資料から、阿波おどりの歴史や特徴などを捉えて、年表や表に表すことができている。(ノート)【知－②】 ・資料から、中断があったにもかかわらず400年以上も続いてきた理由を考え、表現している。(発言・ノート)【思－①】
	3	・阿波おどりのもつよさや踊り手の方の思いを聞くことで、阿波おどりに「地域みんなが一緒になっておどりを楽しむ行事」「地域が活気づく、元気になる」などのたくさんのよさがあることを捉える。	・踊り手の人の話から、阿波おどりに、地域全体が一体となって盛り上がり、地域が活気づくというよさがあることを理解する。(発言・ノート)【知－①】
	4	・阿波踊りに関する統計資料から観光客の増加や踊りの国内・国外への広がりを読み取り、阿波おどりがどのようにして広まっていったのかについて調べ、踊り手の方のくふうや取組について理解する。	・資料から観光客数や他地域での阿波おどりの広がりを読み取ることができている。(ノート)【知－②】 ・踊り手の方の思いや願い、徳島県や運営者の思いや願いから広めるためのくふうを捉えることができている。 (発言・ノート)【知－①】
考えを 話し合う まとめる	5	・阿波おどりを受け継ぎ、広めるためのくふうや取組について順位づけをして、阿波おどりを受け継ぎ発展させていくためには何が大切かを考え、まとめる。	・学習問題を確かめ、阿波おどりが長く続いてきたことや、そのための人々の取組について分かったことを自分の言葉で表現している。(ノート)【思－②】 ・県内の他の伝統行事にも関心を広げ、新たな学習問題をつくり、見通しをもって主体的に追究しようとしている。 (発言・行動観察)【態－①】
問題を つかむ	6	・風流踊の一つとしてユネスコの無形文化遺産に登録された西祖谷の神代踊を取り上げ、資料や映像などから神代踊がどのようなものなのかを調べる。	・神代踊には長い歴史があり、ユネスコの無形文化遺産にも登録された伝統行事であることを捉える。(ノート)【知－①】

表にまとめる	調べたしめる	7	・ 神代踊りについてのテレビ番組から保存や継承のための取組や思いについて知り、受け継ぐためのくふうや広げるためのくふうに分類する。	・ 番組で取材されている保存や継承に関わっている方のお話から、神代踊の歴史や特徴などを捉えて、受け継ぐためのくふうと広げるためのくふうを表にまとめることができる。(ノート)【知－②、思－①】
調べる		8	・ 学校をあげて神代踊に関わっている三好市立櫛生小学校の児童とオンラインで交流を行い、どのような思いで参加しているのか、神代踊を今後どうしていきたいかについて話を聞き、まとめる。	・ 実際に神代踊に関わる同年代の児童から聞いた思いをまとめ、受け継ぐためのくふうや広げるためのくふうを捉える。 (ノート・発言)【知－①】
まとめる		9	・ 阿波おどりと神代踊の2つのくふうをまとめた表を比較し、考えたことを話し合う。	・ 受け継ぐためのくふうと広げるためのくふうをまとめた2つの表から、神代踊の課題を捉える。(発言・ノート)【思－②】
話し合う	みんなで考える	10 (本時)	・ 西祖谷の神代踊はユネスコの無形文化遺産に登録されたにもかかわらず、広げるためのくふうには課題があることを捉え、西祖谷の神代踊を広く知ってもらうためにはどのようなことができるかを考え、まとめる。	・ 阿波おどりと神代踊について調べたことや人々の思いや願いを踏まえて、課題解決のために自分たちができることや地域の人と協力してできることを考え、自分の言葉で表現している。 (発言・ノート)【思－②、態－②】
広げ深める		11	・ 西祖谷の神代踊を広く知ってもらい未来へ受け継いでいくためにできることを具体的に考え、表現する。	・ 学習問題を確かめ、伝統行事の保存や継承について自分ができることを考え、選択・判断して、主体的に行動しようとしている。 (発言・ノート・行動観察)【態－②】

6 本時

(1) 目標

西祖谷の神代踊りを広く知ってもらうためには自分たちにどのようなことができるかについて、阿波おどりについて調べたことやまとめた表と比較・関連付けて考え、表現している。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準と方法
10分	1 阿波おどりと神代踊について整理した表から共通点と相違点を読み取る。	・ 阿波おどりと神代踊も同じ追究の過程で調べたことを思い出させることで、表の項目ごとに比較することができるようにする。	
5分	2 神代踊を未来へ受け継ぎ、広めていくための課題を見つける。	・ 阿波おどりと神代踊の受け継ぐためのくふうと広げるためのくふうを比較することで、神代踊は広げるためのくふうに課題があることに気付かせる。	・ 2つの伝統行事の受け継ぐためのくふうと広げるためのくふうを比較し、神代踊の課題を捉えている。(発言・ノート)

			【思】
	西祖谷の神代踊を広く知ってもらうために自分たちにどのようなことができるだろうか。		
5分	3 阿波おどりを広めるためのくふうと比較しながら、神代踊に関わる人々の思いや願いを振り返る。	・調べたことや踊り手の人の話から考えたことをまとめた表を見返すことで、阿波おどりは広めるための様々なくふうが行われていたことを参考にして、自分たちにできることを考える際に参考にするように助言する。	
20分	4 西祖谷の神代踊を広く知ってもらうためにはどのようなことができるか考え、話し合う。	・自分たちでできることと、地域の方に協力してもらうとできることの2つの視点を持たせることで、具体的に考えることができるようにする。 ・個人の意見をタブレットのふせん機能を用いて書き込み可視化することで、グルーピングや話し合いが活発になるようにする。	・広めるために自分たちができることや地域の人と協力してできることを考え、自分の言葉で表現している。 (発言・ノート) 【表】【態】
5分	5 振り返りをする。	・取組の案を実行するために必要なことを考えさせることで、次時への意欲を持たせるようにする。	

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	阿波おどりと神代踊について調べたことや人々の思いや願いを踏まえて、課題解決のために自分たちができることや地域の人と協力してできることを考え、自分の言葉で表現している。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	阿波おどりで行われている広めるためのくふうや神代踊の課題を表に整理することで、自分たちができることを考え、表現できるようにする。